

令和7年度 高森町歴史民俗資料館
「時の駅」講座

第三講座

高森町堂垣外遺跡の発掘調査から

高森町歴史民俗資料館「時の駅」 主 事

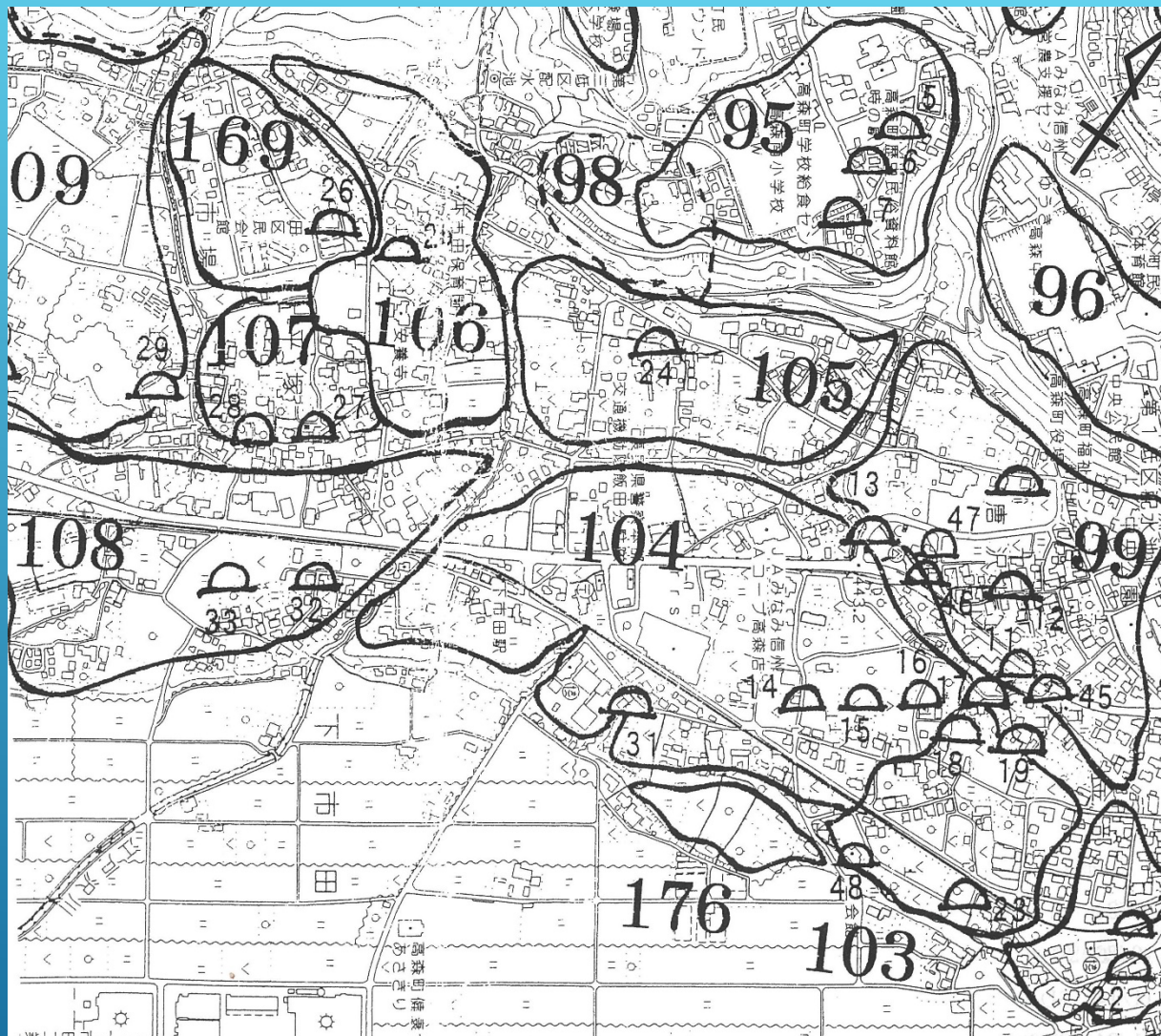
竹内 稔



堂垣外遺跡Ⅰ 遠景(東から)



堂垣外遺跡Ⅰ 完掘状況



- 99 北原遺跡
- 103 金部遺跡
- 105 羽根遺跡
- 106 道寿遺跡



104 堂垣外遺跡の周辺遺跡図



図 24 SD50 墨書【大口】

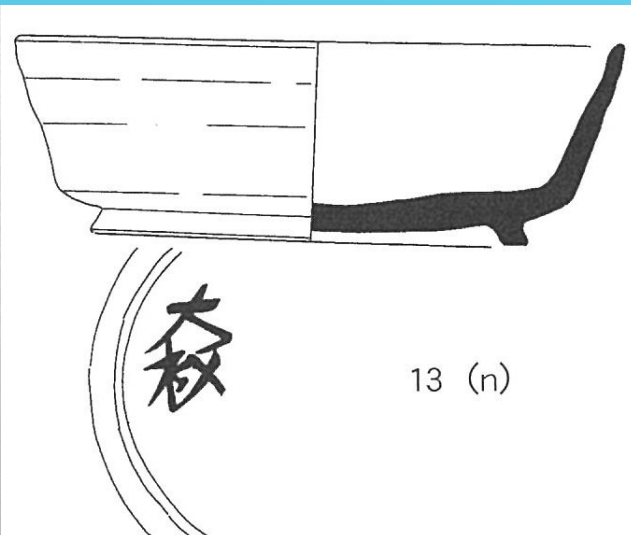


図 16 SD50 墨書【百】

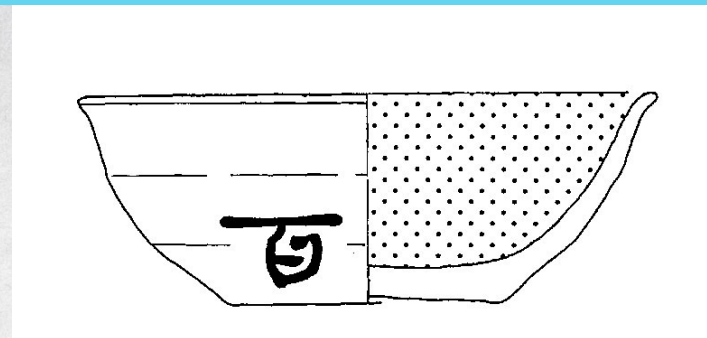
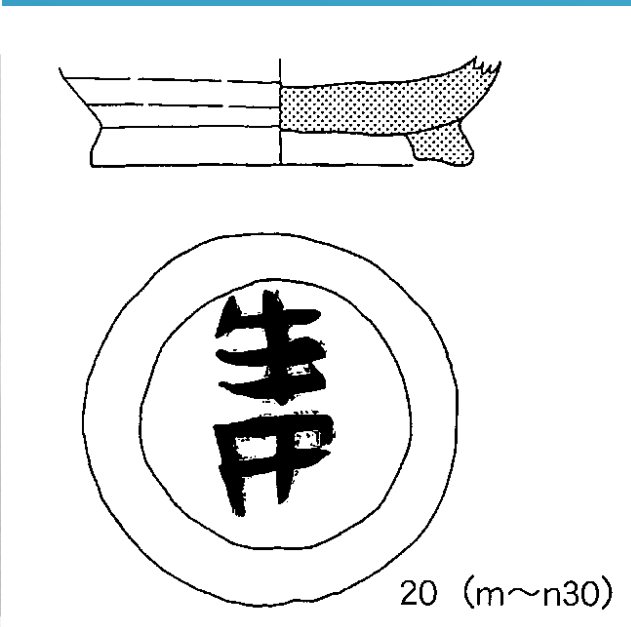


図 30 SD50 墨書【生口】



中谷遺跡Ⅰ出土 硯



中谷遺跡Ⅰ 獣脚円面硯

堂垣外遺跡Ⅰ SD50出土墨書土器

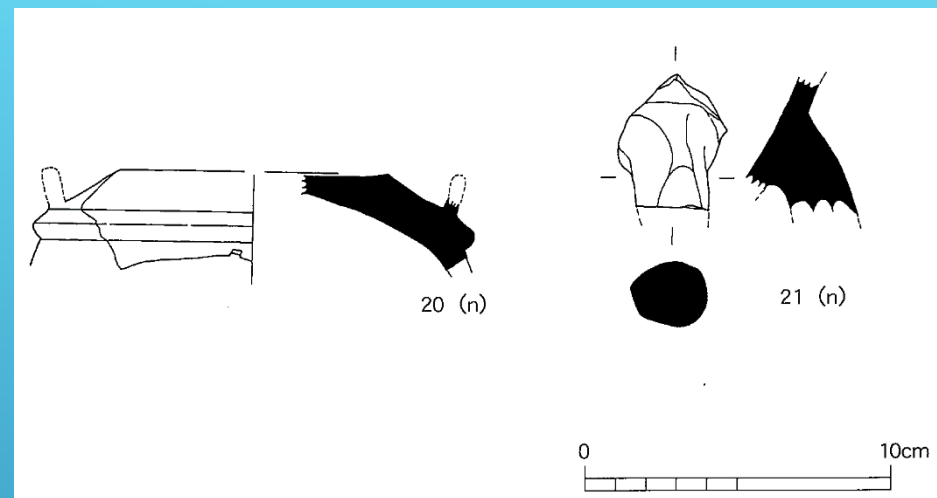
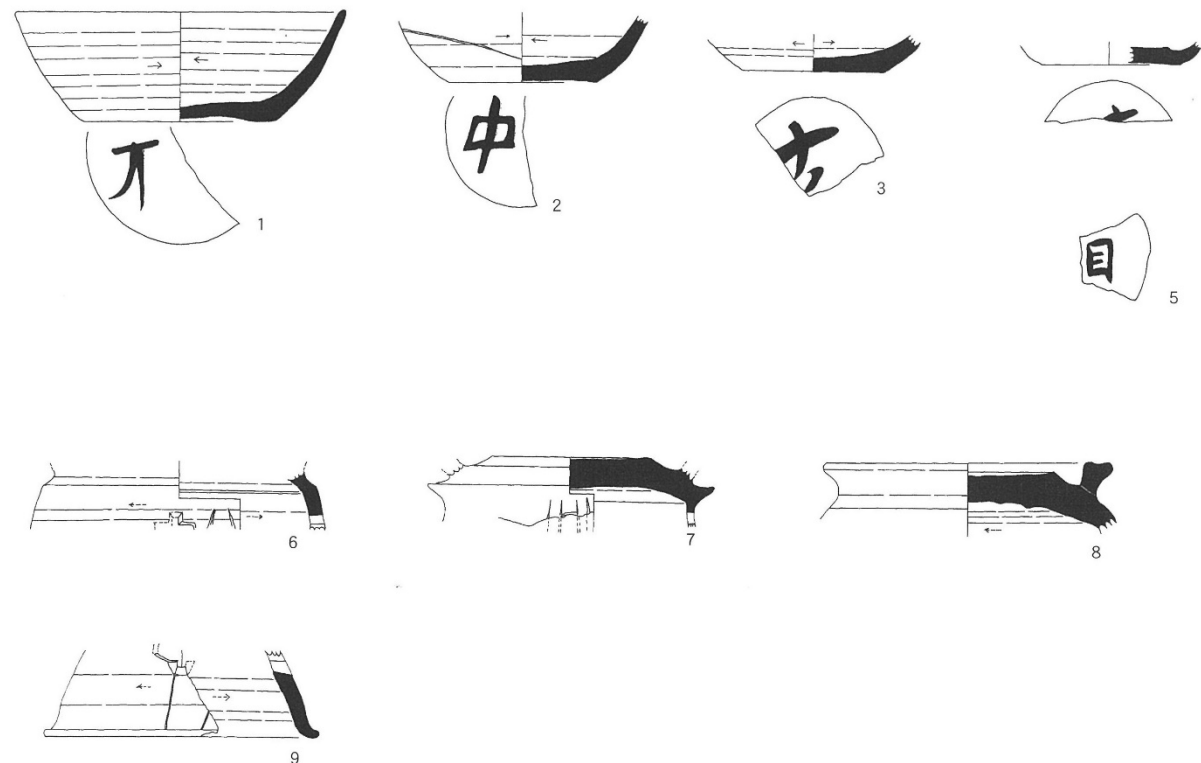


図 40 SD21 硯



円面硯・墨書・獣脚

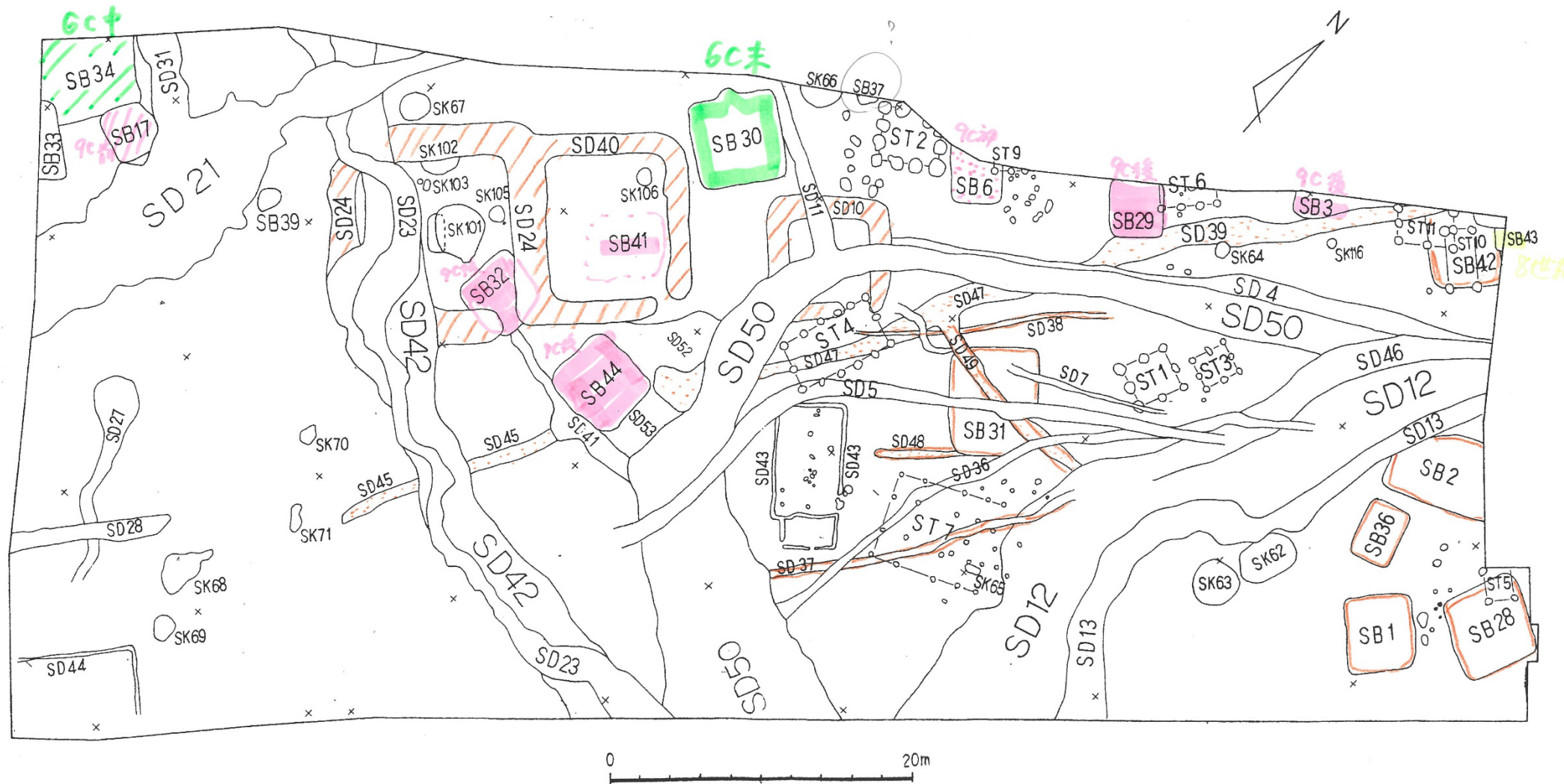
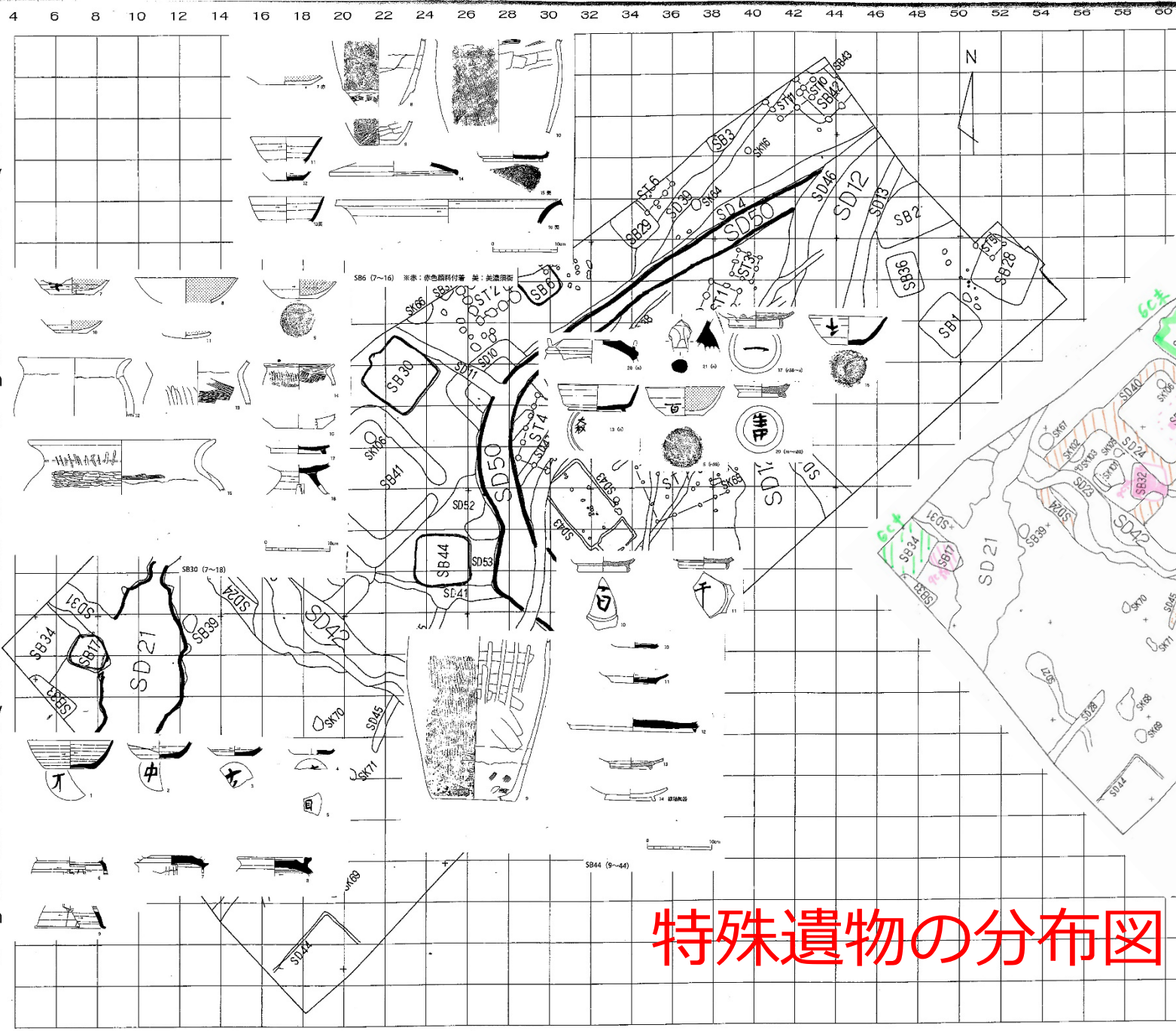


図6 堂垣外遺跡Ⅰ 遺構全体図 (1:400)

時期別主要遺構図

zyxwvutsrqponmlkjihgfedcbazyxwvutsrqponmlkj



特殊遺物の分布図

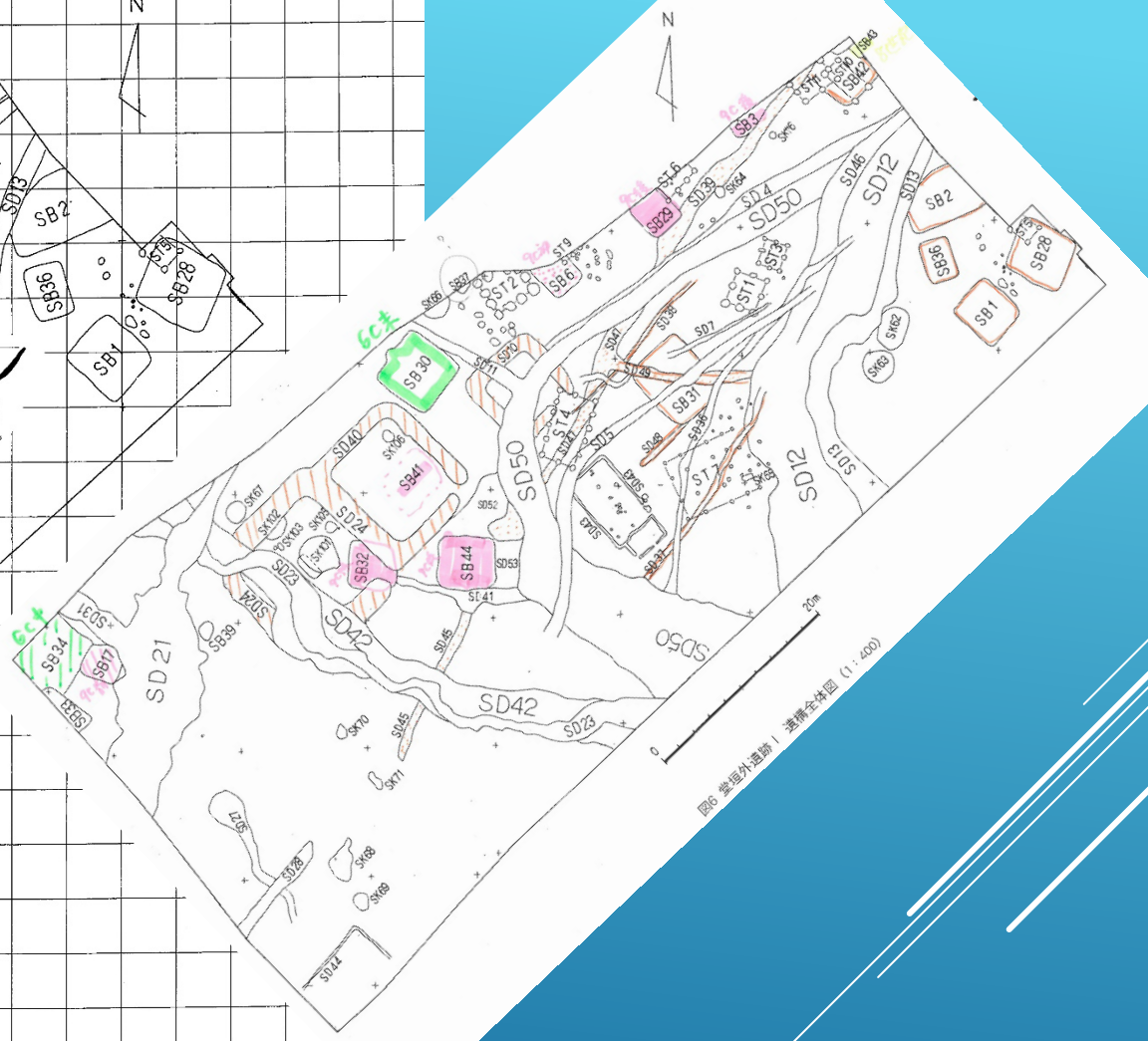


図6 遺跡外遺物 | 遺跡全図 (1:100)

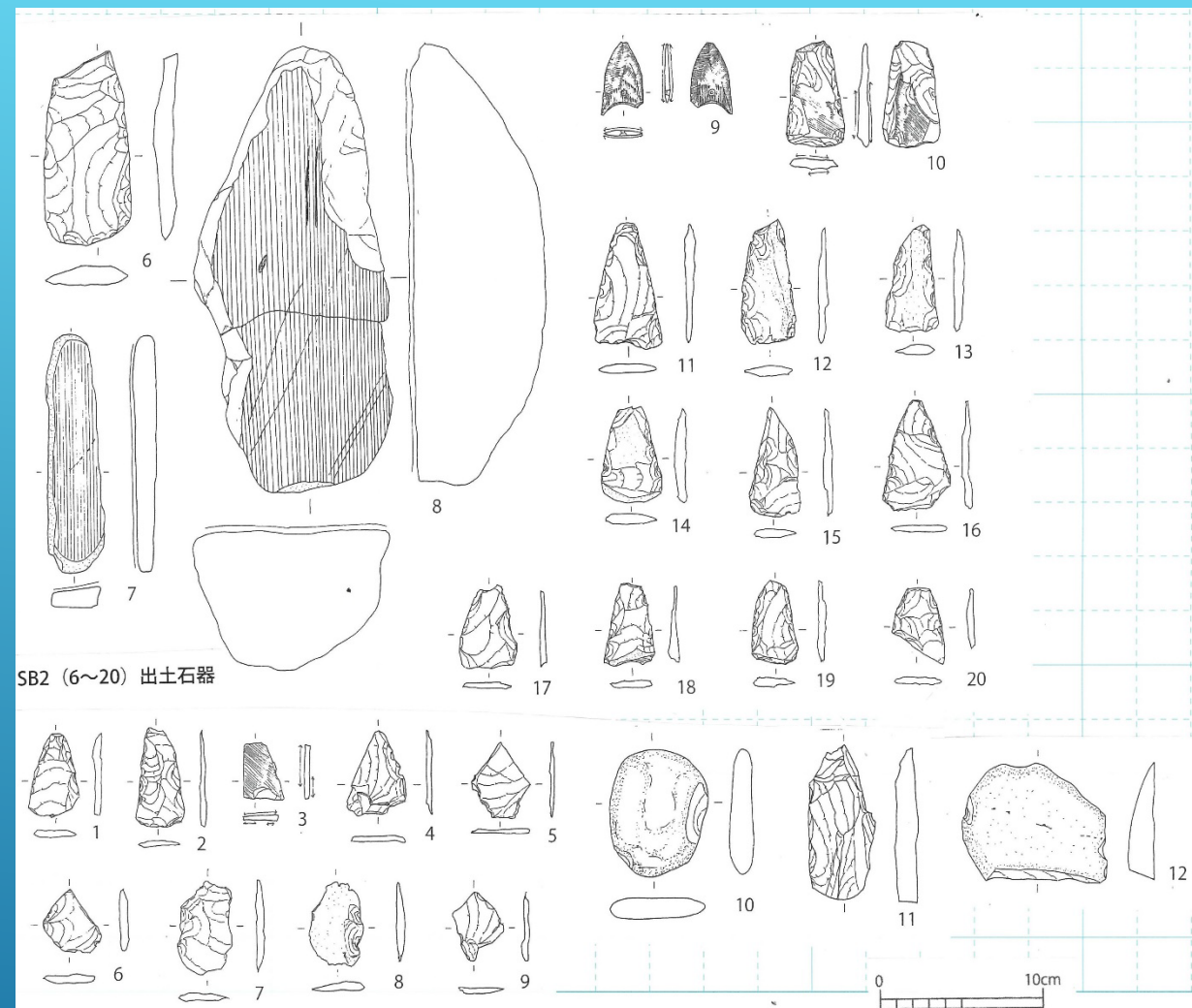
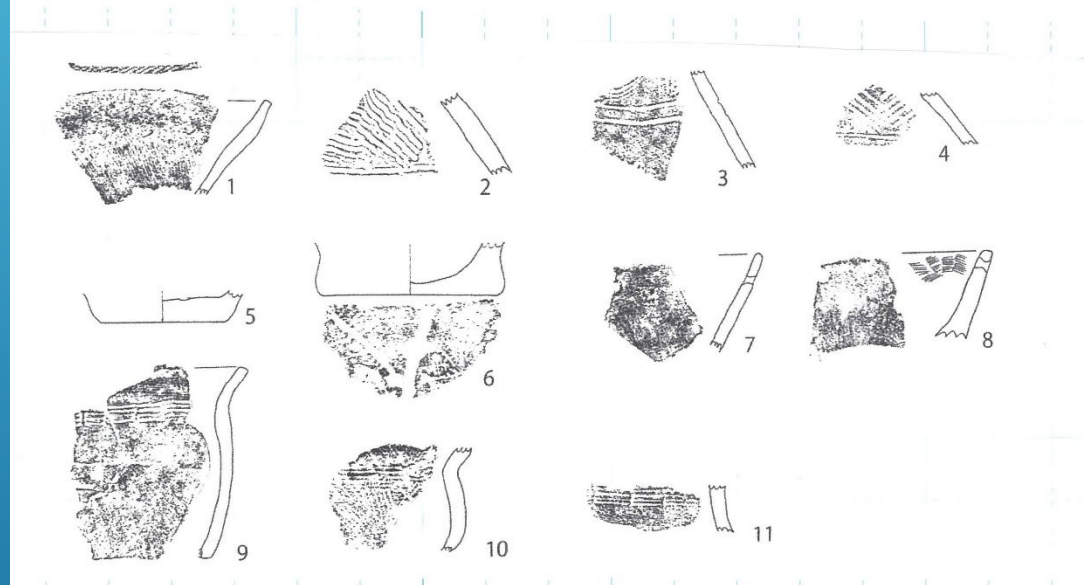
(2) SB2

規模・形状：調査区の東の壁に接触する形で検出された。遺構全体の概ね3分の2が検出されている。一部SD13に切られ、東側は一部調査区域外になるが、形状は長方形で短辺が約4.8 m、長辺は明確ではないが計測できる範囲で8 mを超える。

施設：炉跡

遺物：壺A2 1他5、小型甕1、甕2、台付甕1、磨製石鏃21点（完成品1点）、砥石他

時期：弥生時代中期後葉末



堂垣外遺跡 I 2号住居址 出土遺物

第1節 遺跡の来歴

堂垣外遺跡は国道153号線に貫かれる形をしており、包蔵地としても範囲が広い。

調査区はこの堂垣外遺跡のほぼ中央に位置しており、調査の時点では過去の発掘履歴がなかったものの、遺物が多く表採されるなど遺跡の可能性が示唆されていた場所でもあった。後に行われた調査から、堂垣外遺跡Ⅰの調査区が遺跡の中心とっていい場所であることが分かっている。

半面、国道を挟んだ北西側になると畑などの耕作遺構はあるものの、建物のような集落遺構が途絶える傾向にある。

堂垣外遺跡 Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ 位置図

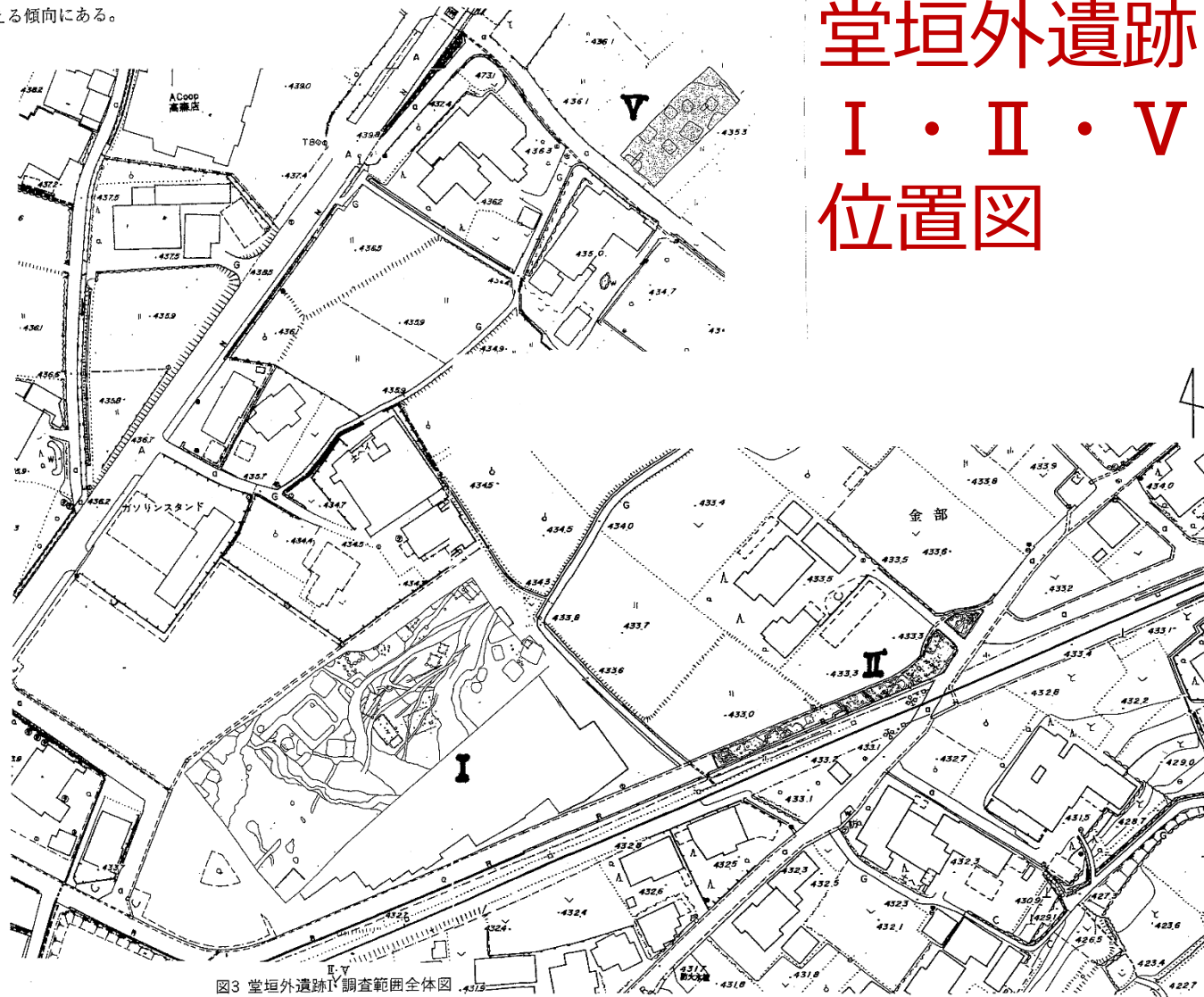
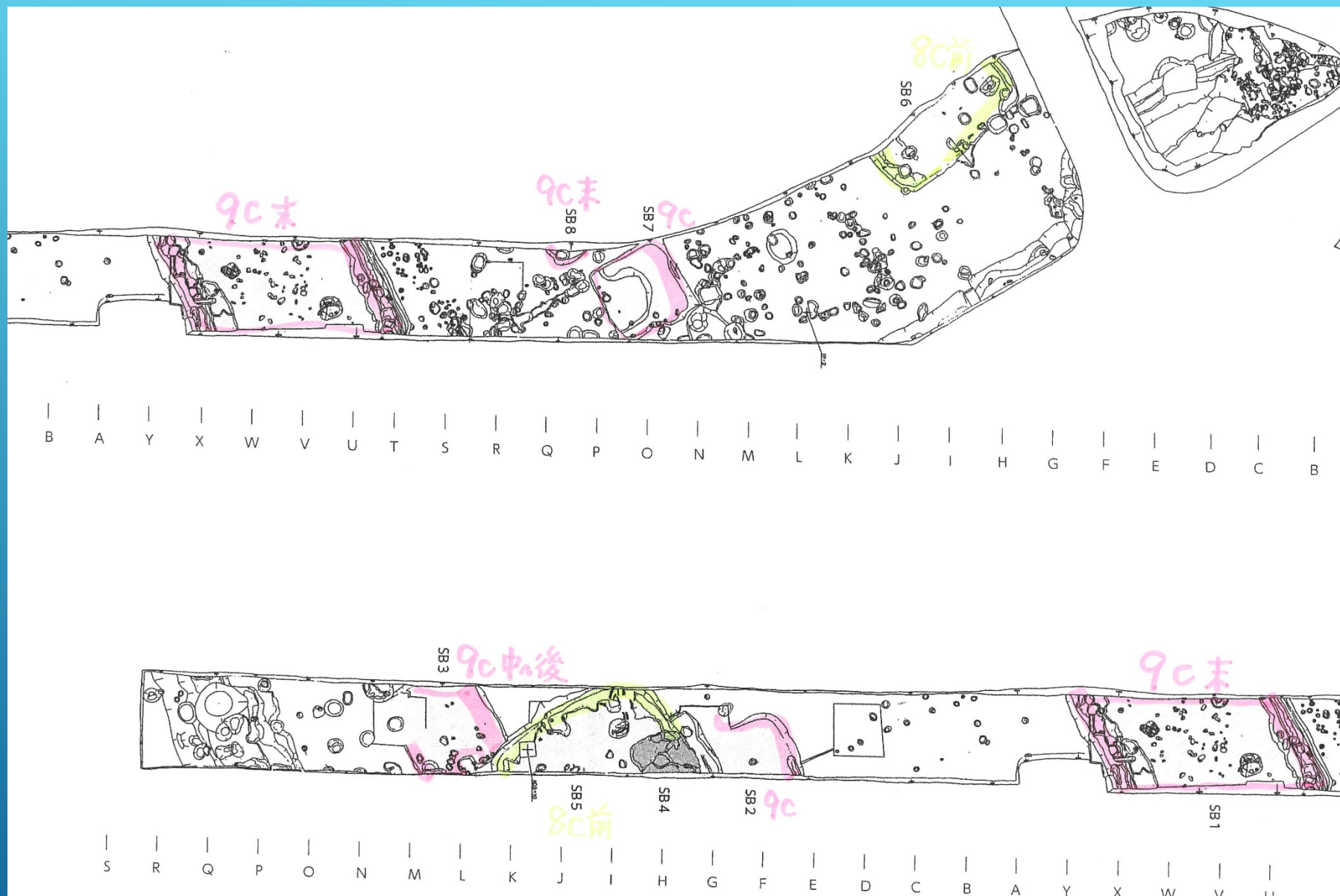
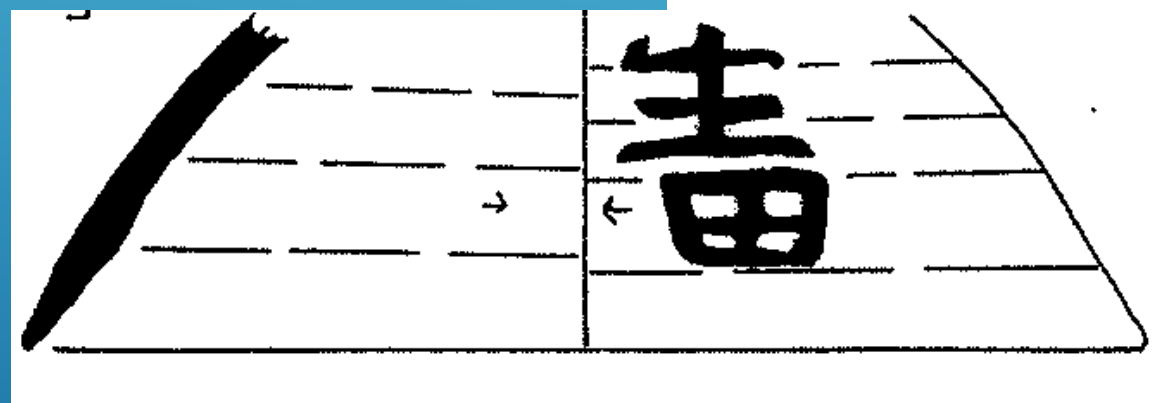
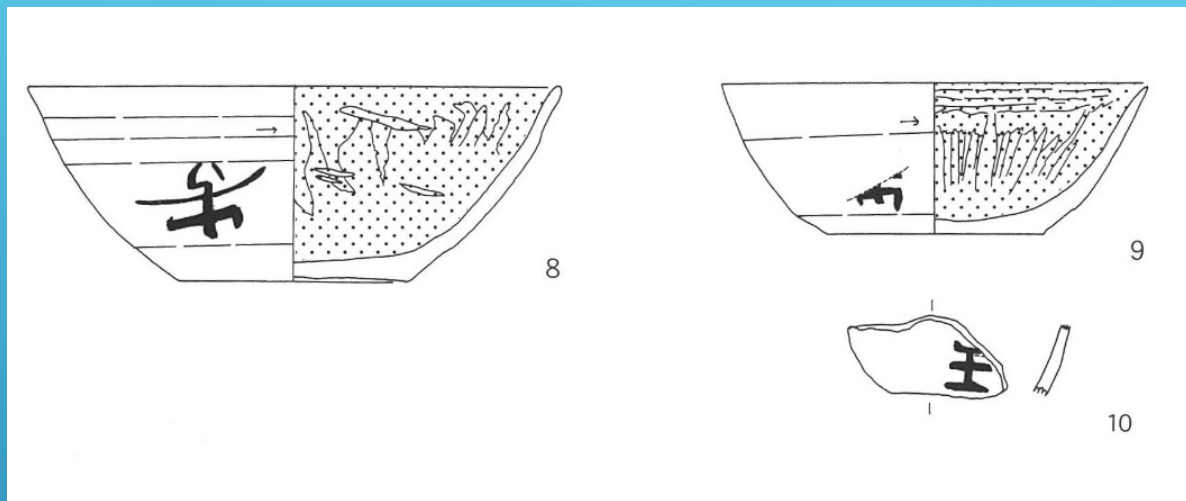


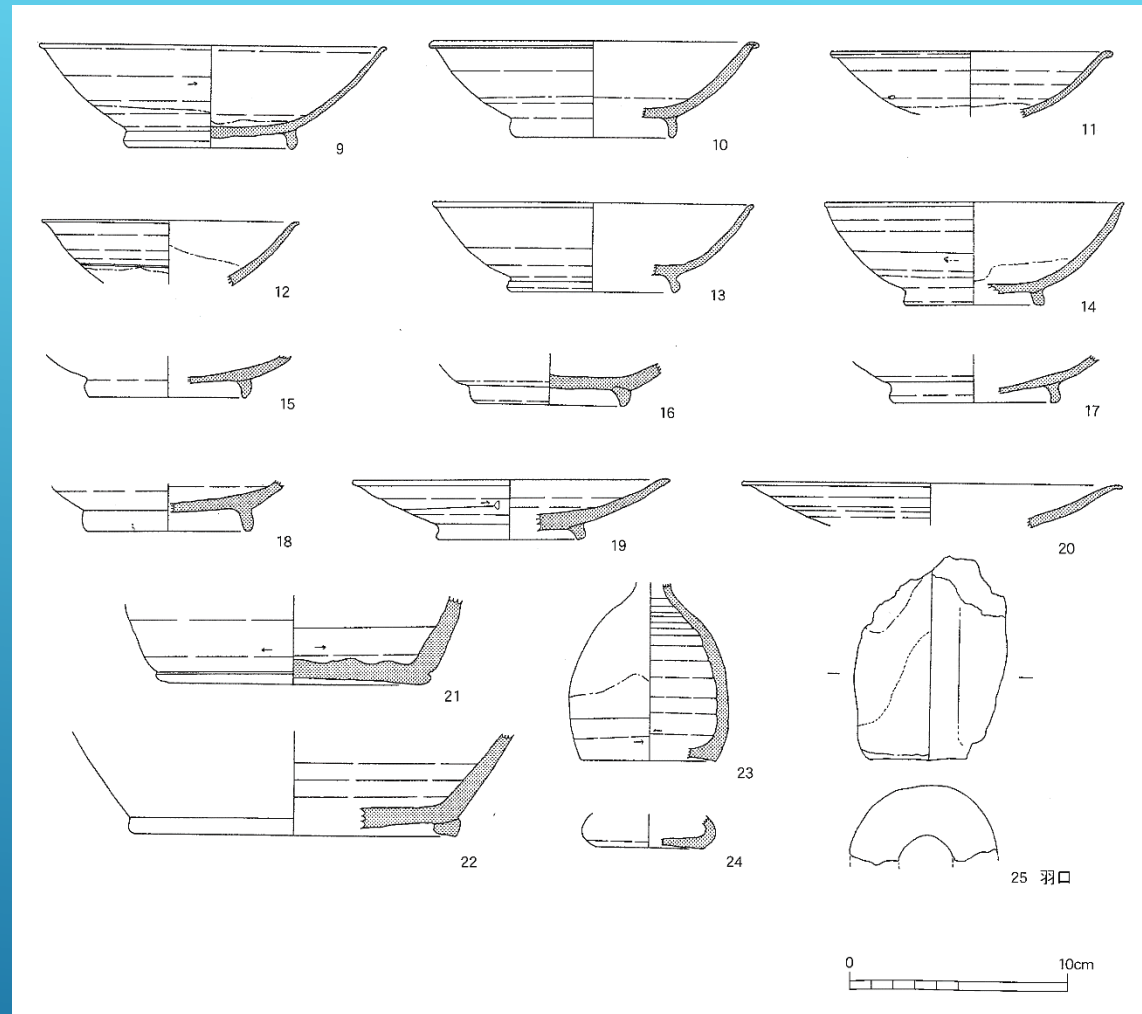
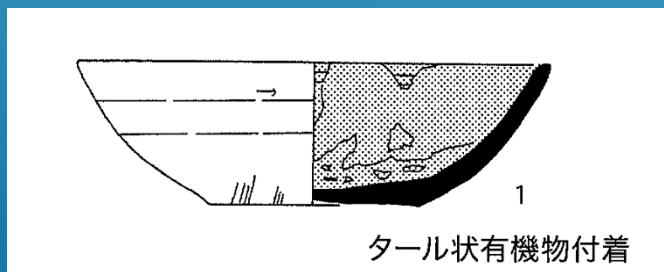
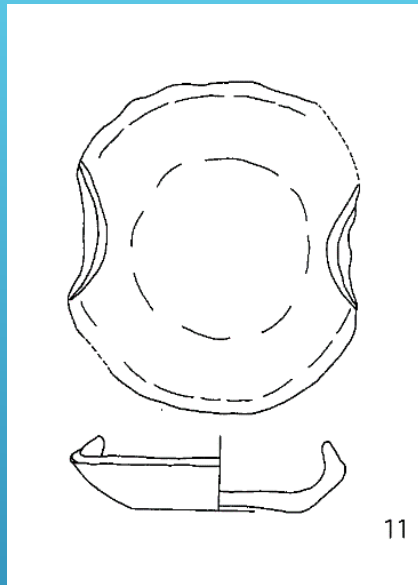
図3 堂垣外遺跡Ⅰ調査範囲全体図



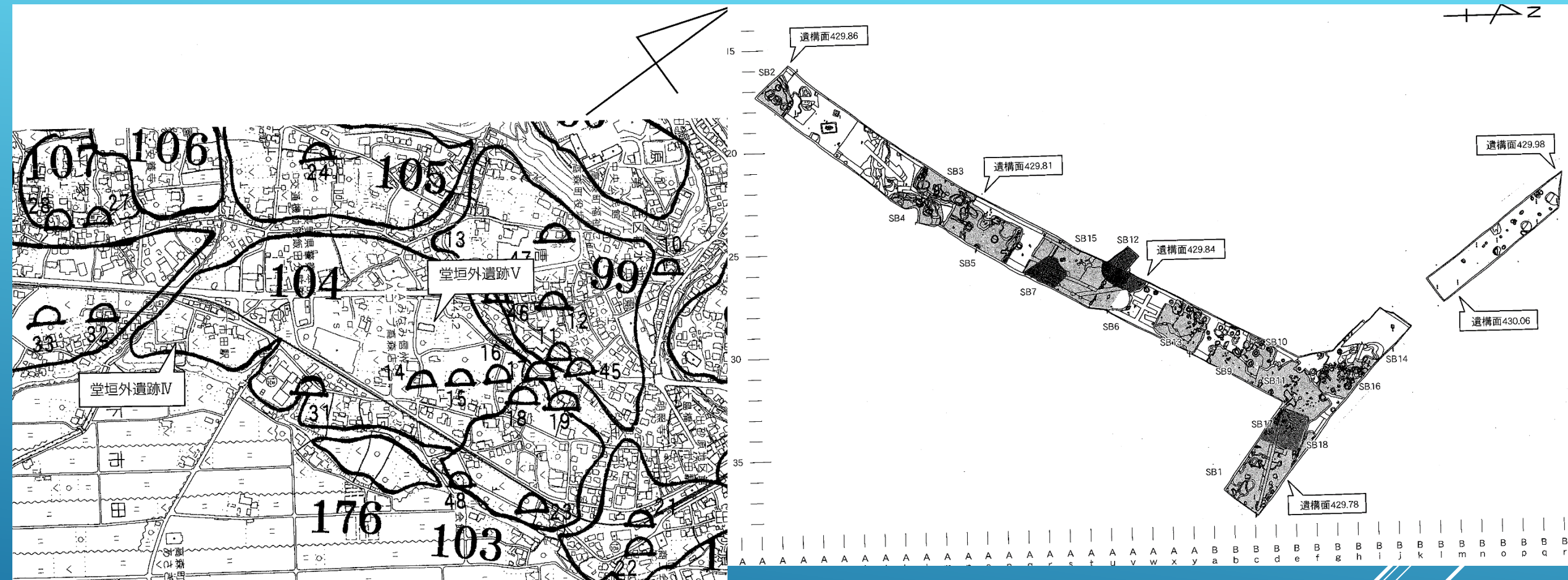
堂垣外遺跡Ⅱ 遺構全体図



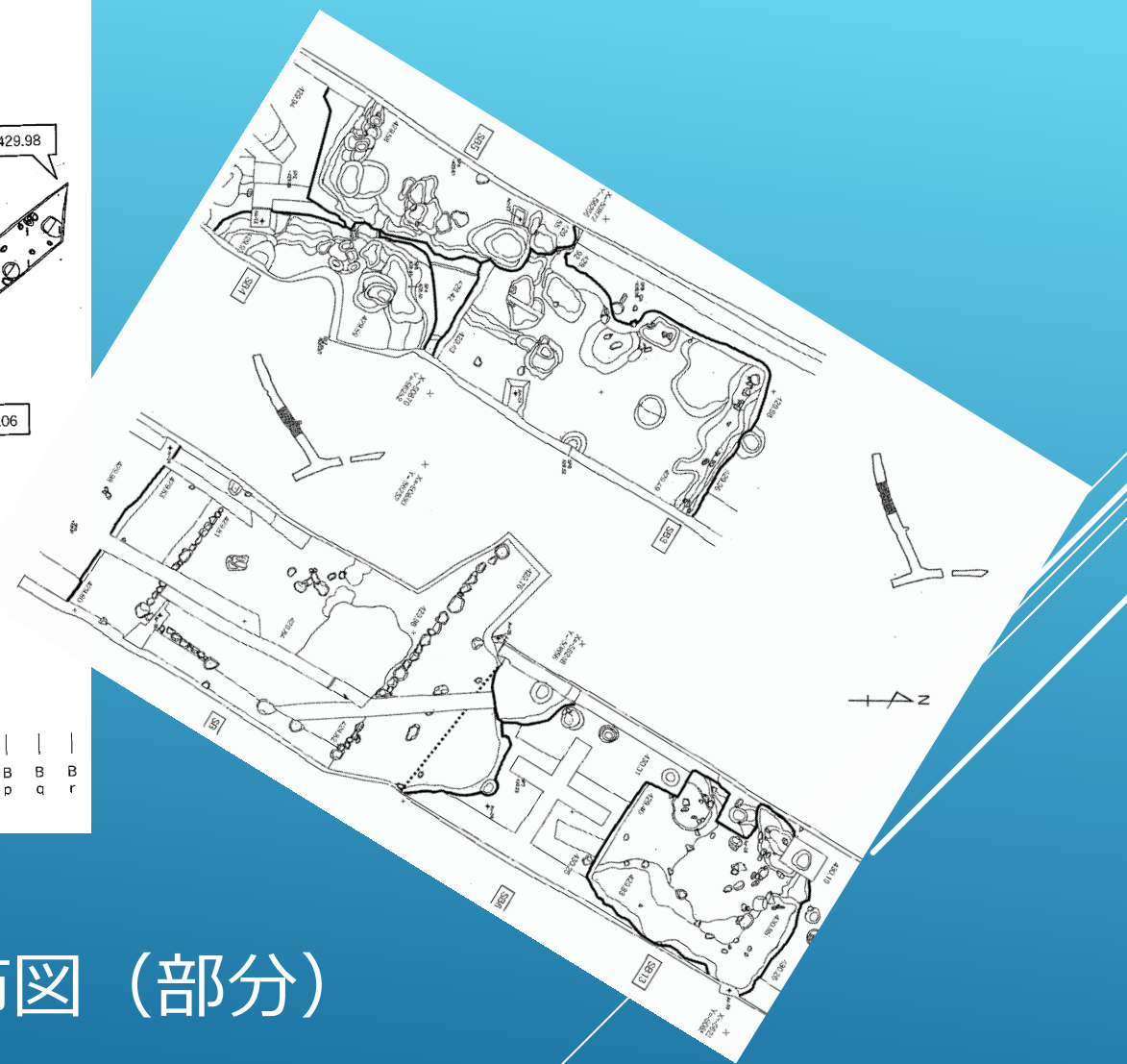
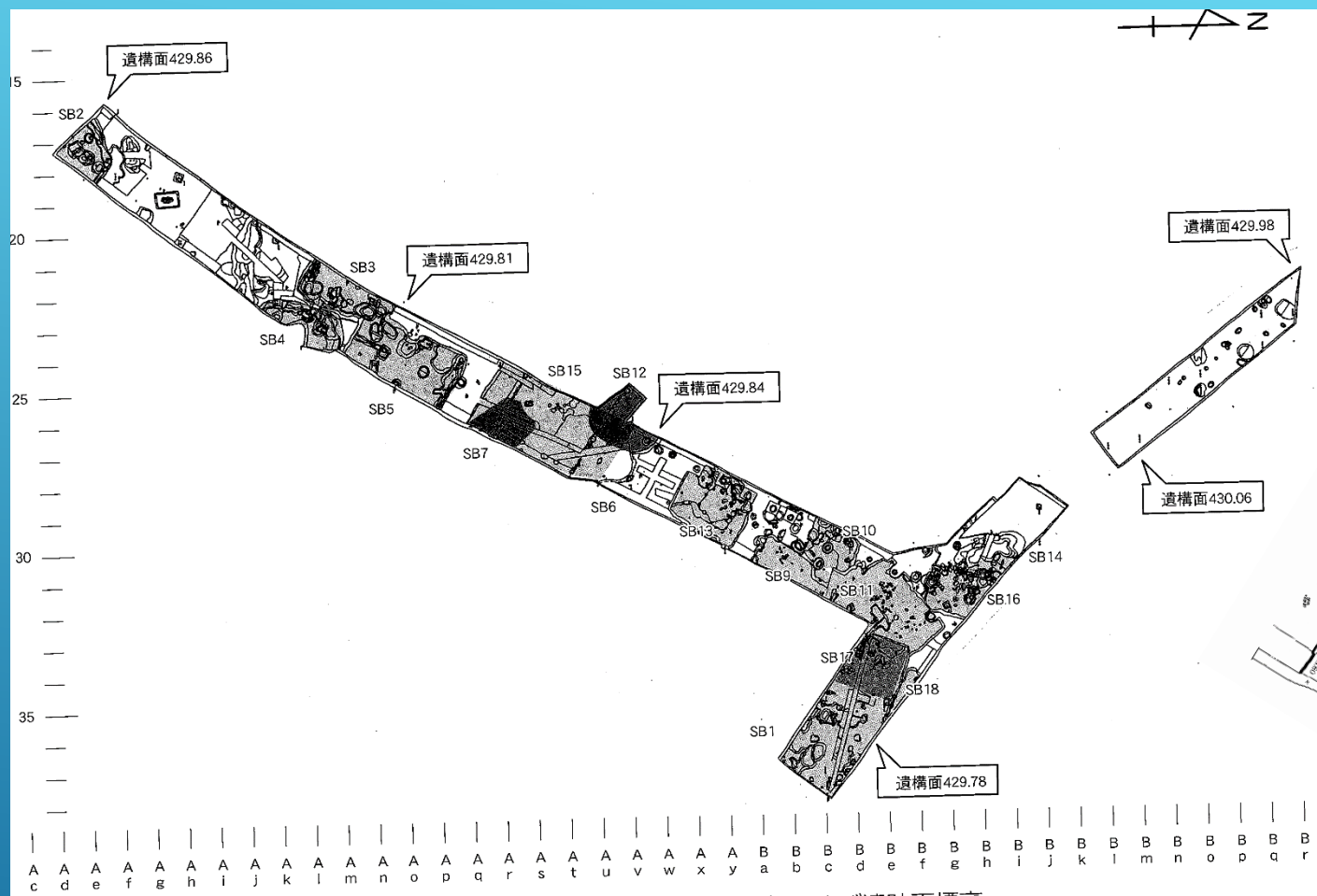
堂垣外遺跡Ⅱ 1号住居址出土 墨書土器



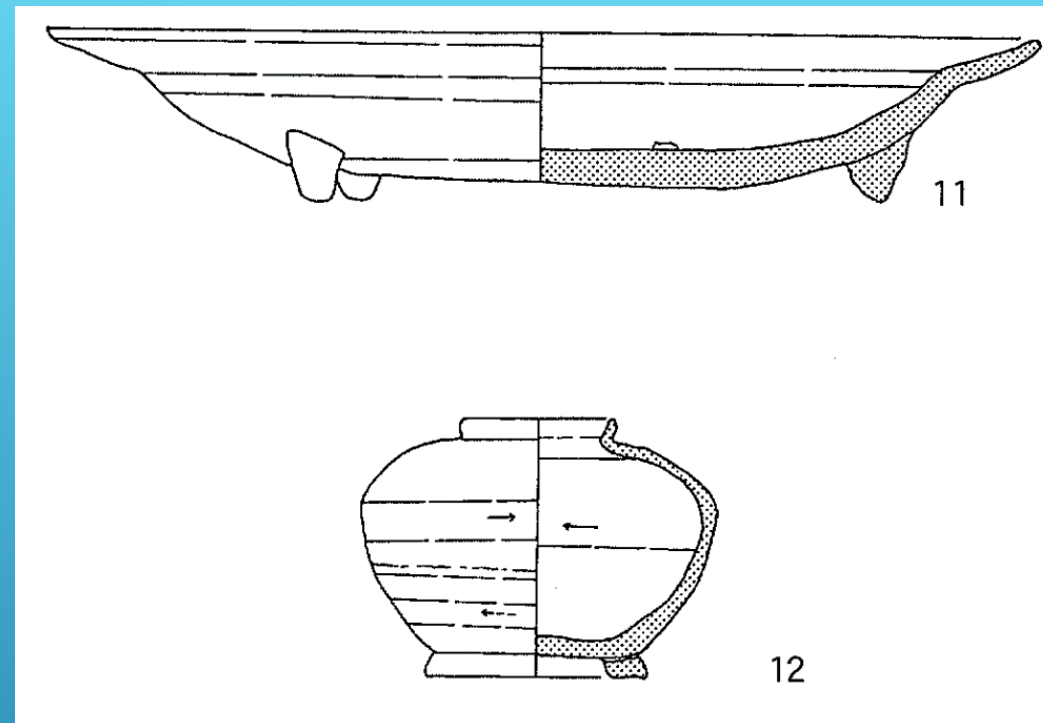
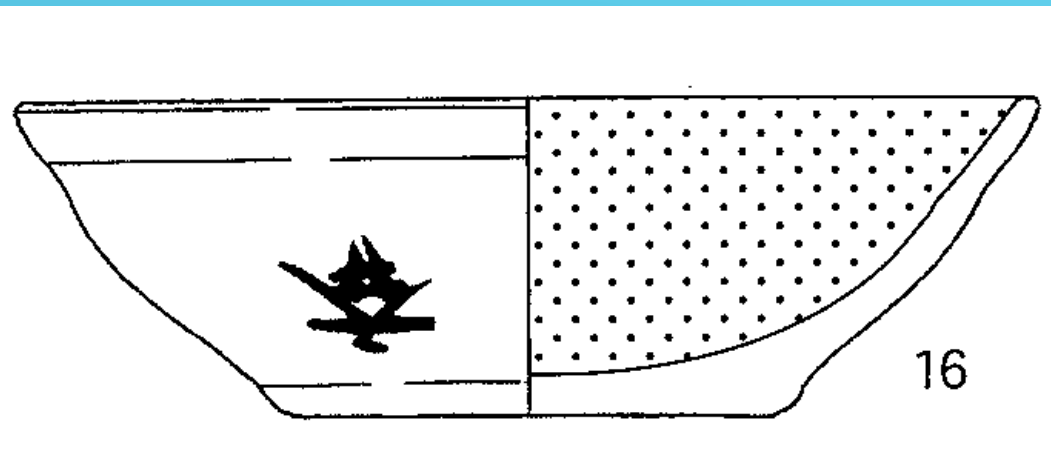
堂垣外遺跡Ⅱ 1号住居址出土 特殊遺物



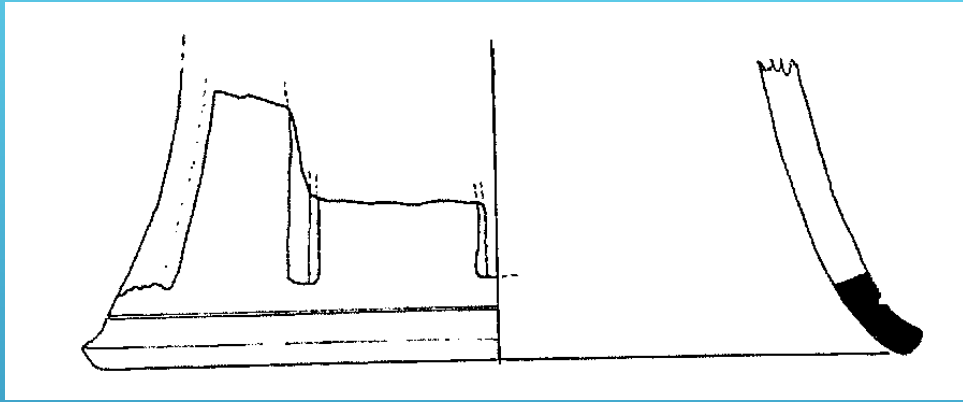
堂垣外遺跡Ⅳ 周辺遺跡図・遺構全体図



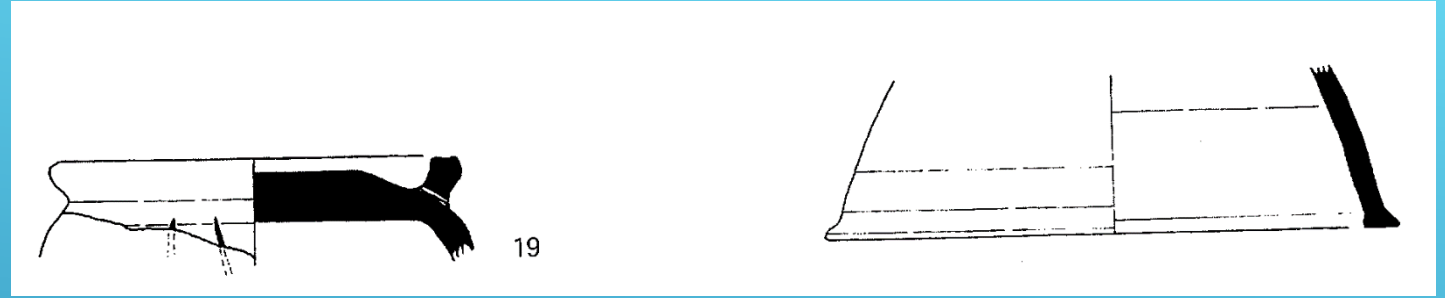
堂垣外遺跡IV 遺構全体図・遺構分布図（部分）



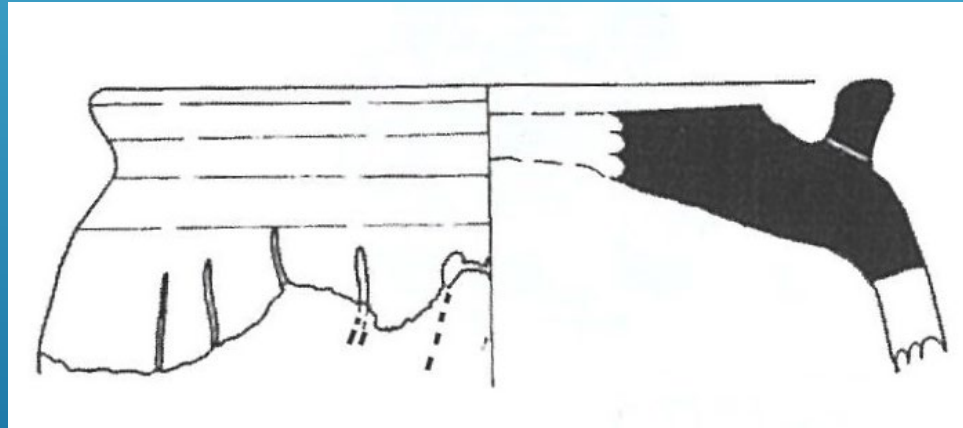
堂垣外遺跡Ⅳ 3号住居址出土墨書土器・灰釉陶器



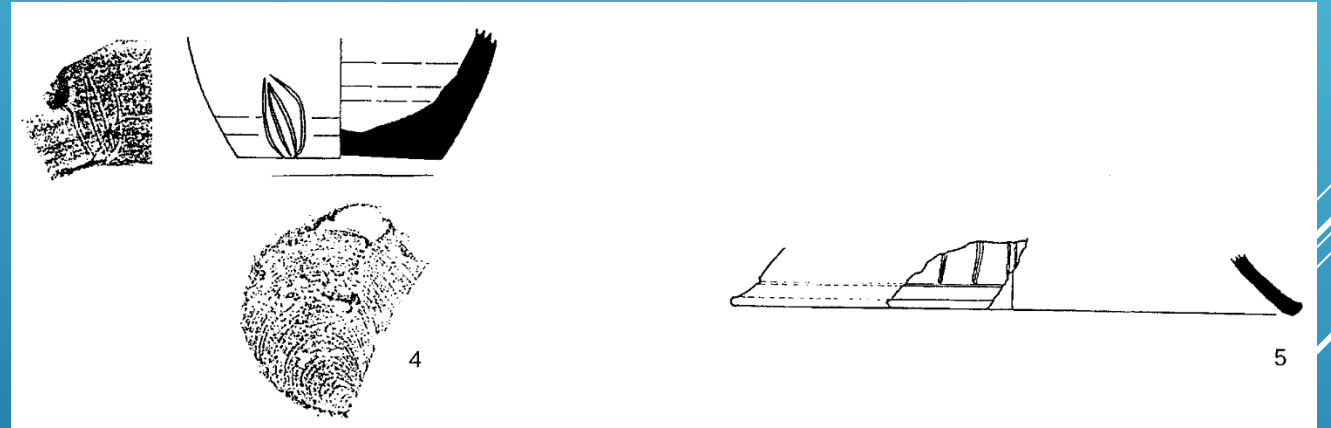
6号住居址出土 円面硯



15号住居址出土 円面硯

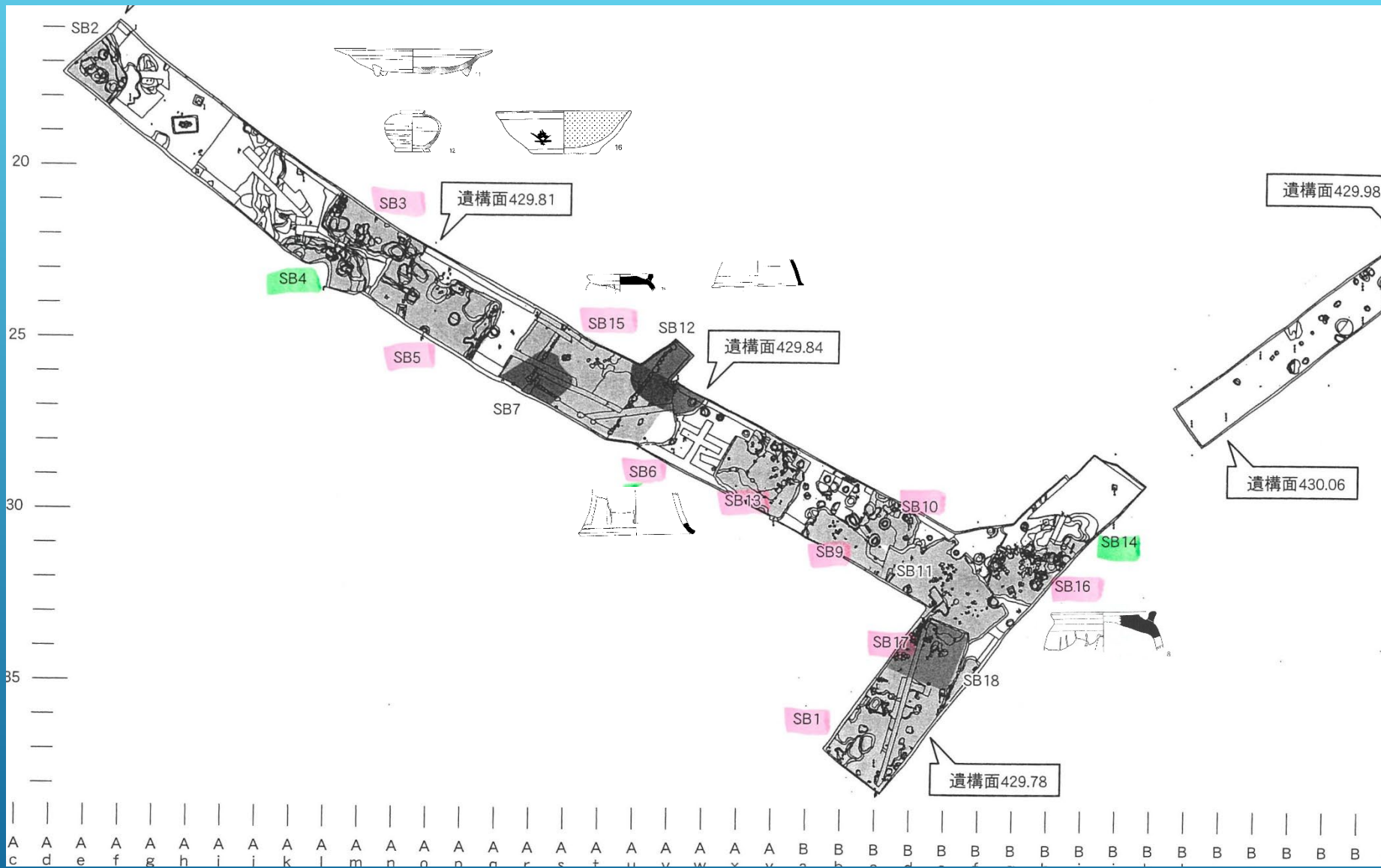


16号住居址出土 円面硯

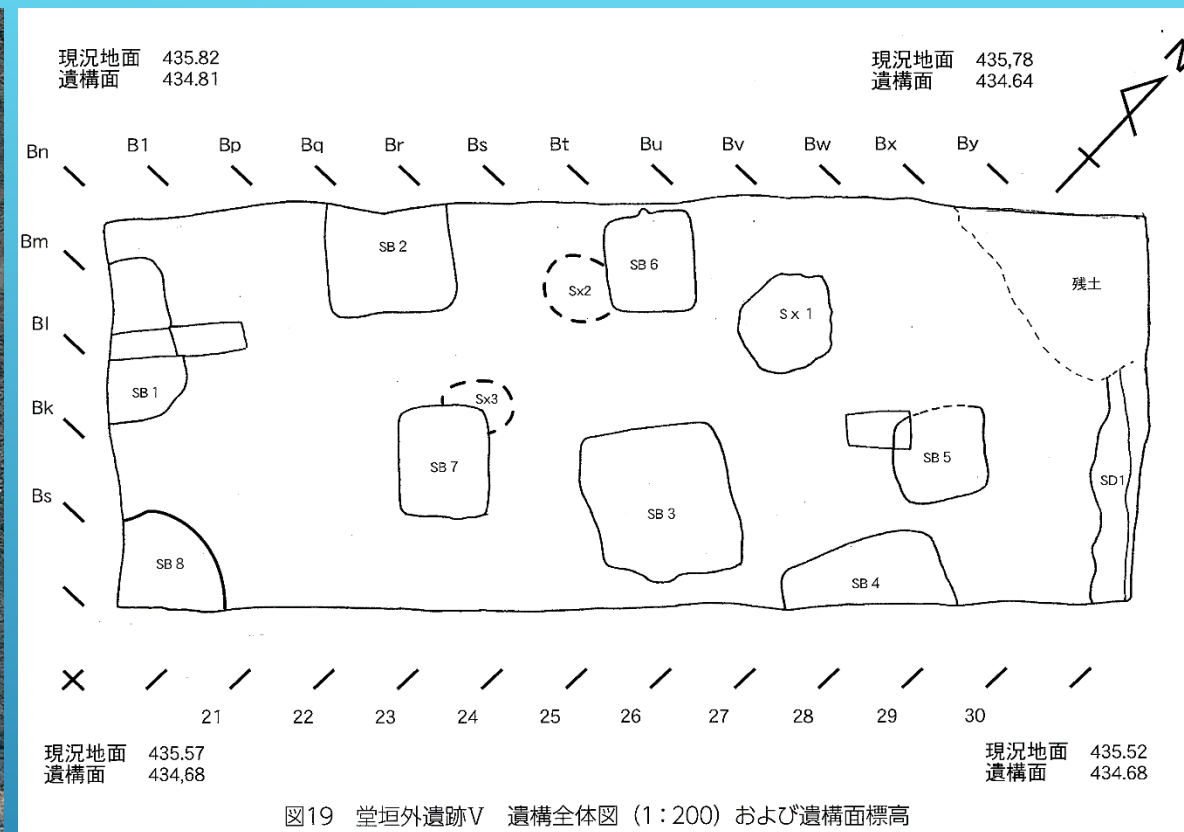


グリッド遺物

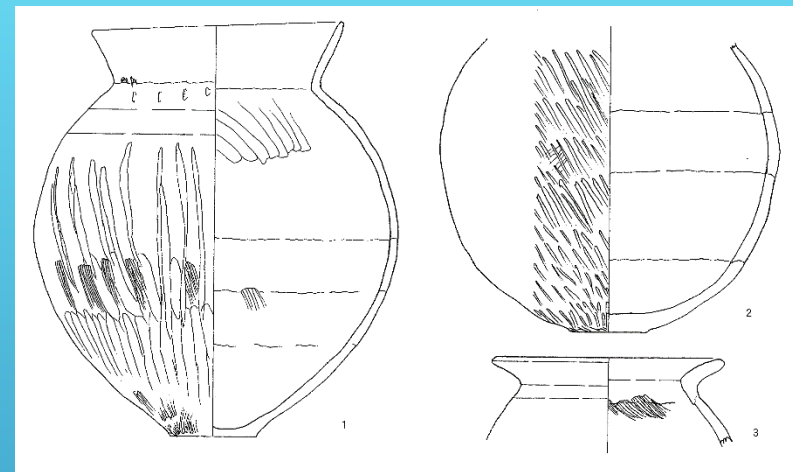
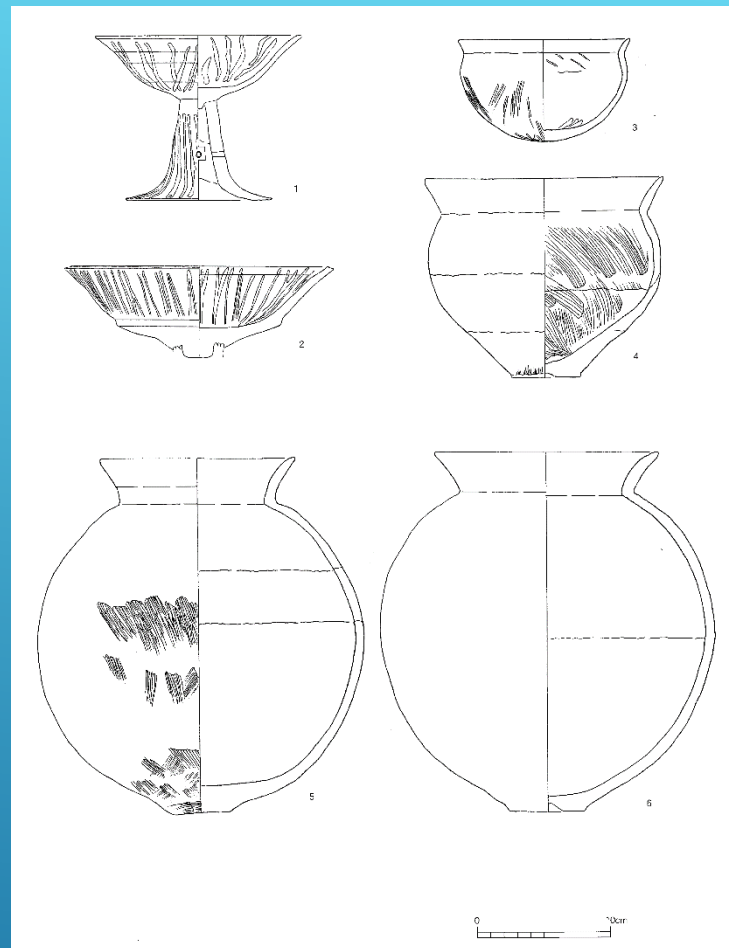
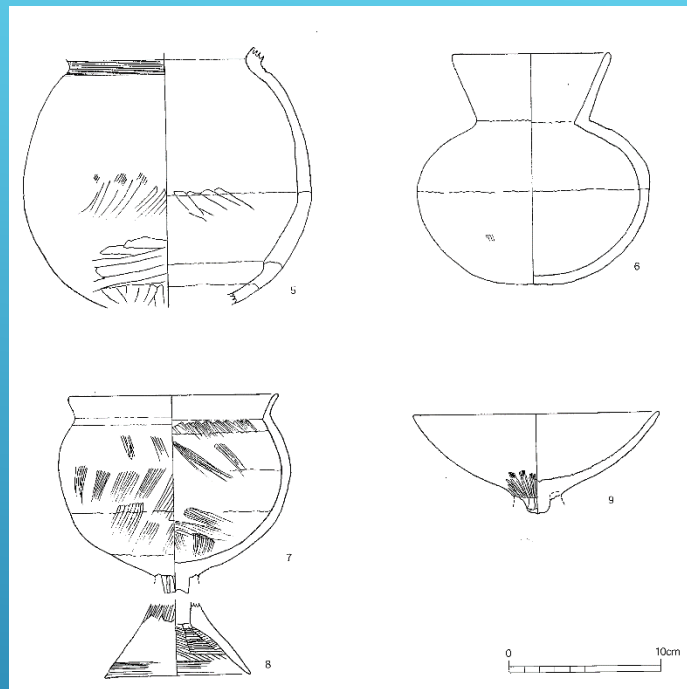
堂垣外遺跡Ⅳ 特殊（？）遺物



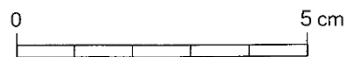
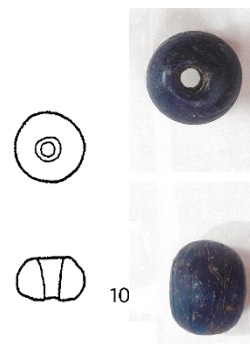
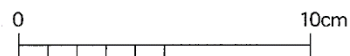
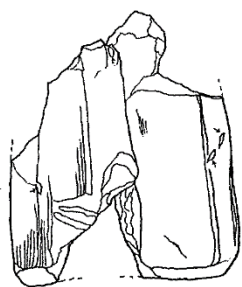
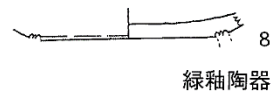
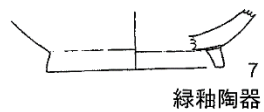
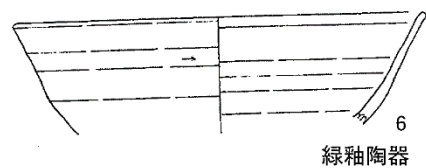
堂垣外遺跡Ⅳ 時期別全体図と特徴的遺物



堂垣外遺跡Ⅴ 全体写真・遺構図



堂垣外遺跡Ⅴ 2号住居址出土土器

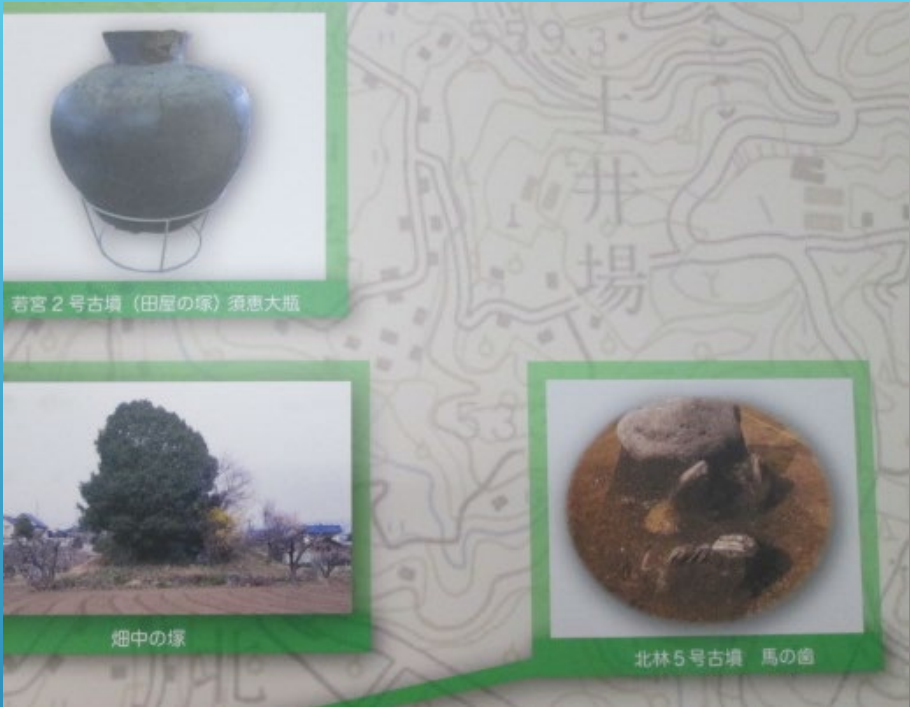


堂垣外遺跡Ⅴ 出土 特殊遺物

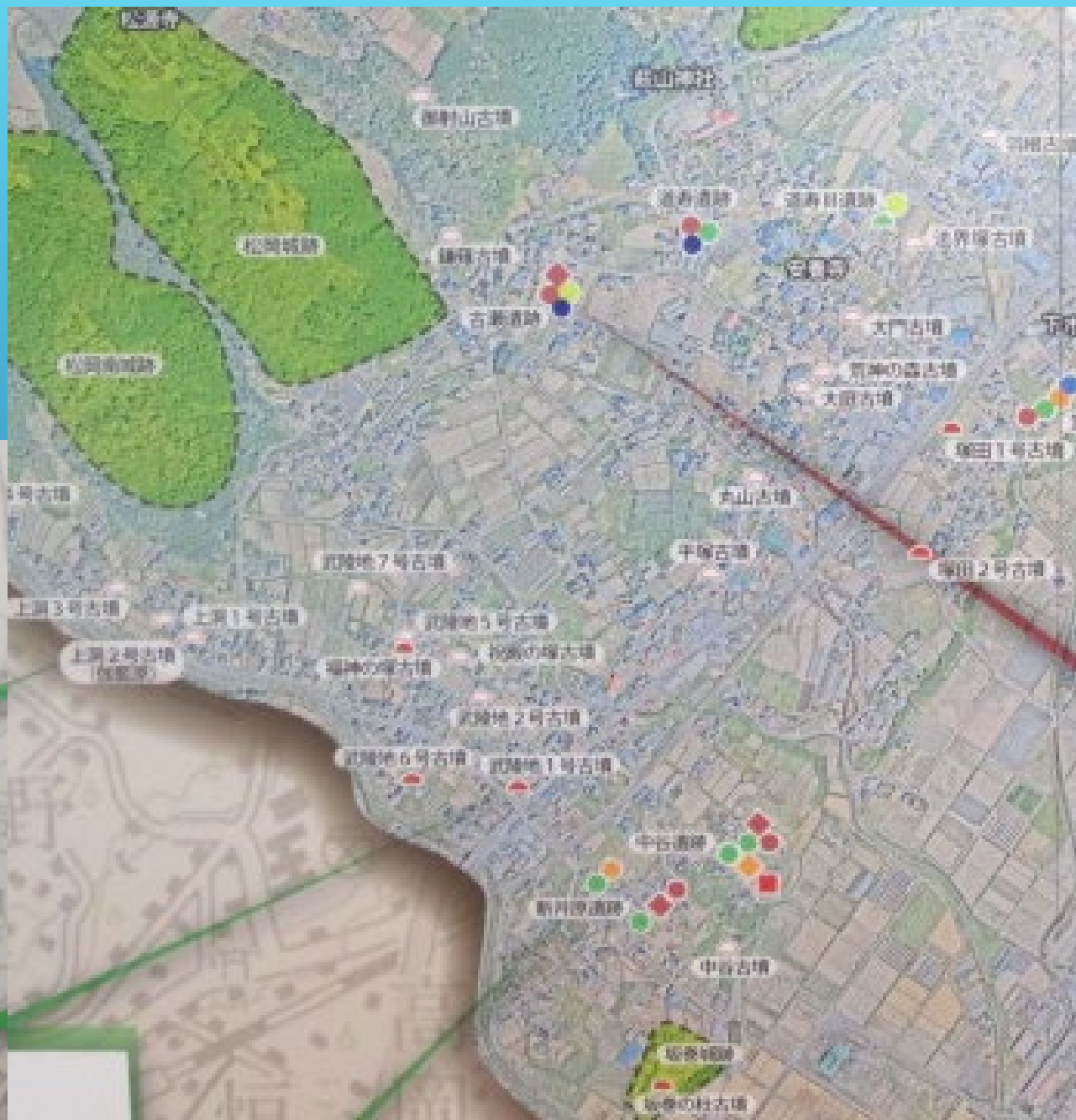


堂垣外遺跡と周辺の 古墳との関係 ～富本銭出土の背景

若宮2号古墳



上洞古墳群



堂垣外遺跡（Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ）の発掘から見えてきたこと

- ・北原遺跡から続く緩斜面に（縄文）弥生中期から平安時代に亘って断続的に集落が営まれた遺跡である。
- ・弥生時代は、遺跡内の溝址によって空間の区画（居住・墓域）がなされていた。
- ・古墳時代以降は、溝を意識して住居が建てられ、軸の方位に規則性が認められる。
- ・古墳時代の集落域は明確でないが、馬生産の一翼を担う、朝鮮系の文化を持った集団により群集墳が造られた。
- ・8世紀以降、溝・住居から識字層の存在を示す遺物が出土し、恒川遺跡に近づくほど濃密になる。
- ・7世紀以降、下市田の水田地帯を取り巻く遺跡群には、富本銭を持てる豪族が現れ、古代伊那郡衙を支える役人層が成長したのではなかろうか。



ご清聴ありがとうございました



特別展

「天竜側に架かる 橋の歴史」

11月2日～12月7日

◆この講演会に参加された方は、
資料館受付窓口で、お手元の講演
会資料を提示していただければ、
町外の方も無料です。
どうぞ、ご覧ください。